



# ふるさと福井の元気再生

福井県知事 西川 一誠

これまで、マニフェスト「福井新元氣宣言」に基づき、県民が暮らしの「豊かさ」を実感できる「ふるさと」づくりを努めてきました。平成二十二年度は、その締めくくりに当たります。

## 「子育て」など新しい計画の実行

「福井新元氣宣言」を着実に実施し、また新しい課題に対応するため、分野別に計画を策定していますが、今年度から、「子育て」「文化」「水産」「林業」の分野について新たに計画がスタートします。

「子育て」に関しては、まず、医療費の助成を大幅に充実します。就学前まではこれまでと同様に無料で、小学校一～三年生は最大五百円までで診療を受けられるという全国トップレベルの支援策を市町と連携して講じていきます。また、放課後児童クラブへの六年生までの児童の受け入れの拡大、保育士による病児デイケア施設への送迎費用の補助、育児サポート企業アドバイザーの派遣など、親が安心して働ける環境の整備を盛り込みました。

「文化」の分野では、県内の小学五年生全員が県立音楽堂でオーケストラの演奏に触れる機会を提供します。また、文化施設における授業や学芸員による学校への出前セミナーなどを実施し、子どもたちの感性や豊かな心の醸成に力を入れていきます。

「水産」「林業」では、市場での商品力を向上することを重視しました。

「水産」の分野では、漁業者が船上で行う活けはじめ等の鮮度向上の費用に対し、漁獲量や実際の商品力アップの成果に応じ、補

助します。また、地産地消の一環として学校給食に「せいこがに」など地の魚を提供するほか、越前がにの安定的な漁獲量を確保するため「越前がにの増殖場」を拡大します。

「林業」に関しては、複雑な木材の供給ルートをも簡略化し、県産材を直接市場に供給できる体制を構築します。さらに、集落を単位としたコミュニティ林業を推進し、県産材の生産量を増やします。

## ふくいブランドの発信

本県は、全国の恐竜化石の八割を産出する恐竜研究の中心です。今年度は、世界三大恐竜博物館の一つに数えられる県立恐竜博物館が開館十周年を迎えますので、全長15m、世界最大級のカメラサウルス全身骨格化石を公開し、恐竜のメッカ、福井を更にアピールしていきます。さらに、NHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の放送が決定しました。「江」は、柴田勝家と再婚したお市に連れられ、幼少期を越前北の庄（現福井市）で過ごしており、これを契機に戦国の福井を全国に発信していきます。

また、本県では、十三基の原子力発電所が運転しており、国のエネルギー政策を支えているほか、エネルギーに関連した研究も盛んです。今年六月にはアジア太平洋経済協力会議（APEC）のエネルギー大臣会合が本県で開催されます。APECの開催を機に、エネルギー研究の最先端地としての福井はもとより、歴史、文化、自然、食といった本県の魅力を全国・全世界に発信

していきたいと考えています。

## ふるさと知事ネットワーク

今、地方分権の時代と言われます。一口に地方といっても、大都市圏と地方圏では、課題が異なっており、地方圏においては、若者や企業の大都市圏への流出、過疎化の進行、地域産業の衰退などの問題がますます顕在化しています。

このような中、地方自らが、一つひとつの課題に密着した「地方知」に基づく創意工夫を行い、自立することが必要です。そのため、地方が明確な意志をもって、相互にネットワークを築くことにより、新しい地方自治のモデルを創り上げることが必要になっていきます。

本県は、同じような課題を抱える、地方の十県とともに、「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」を設立しました。このネットワークでは、今後、各県が互いに協力し、切磋琢磨しながら、共同研究や政策提言を行っていきたくと考えています。

今年は、これらに加え、およそ十年後を見通した「将来ビジョン」の策定を始めました。将来に希望を持てる地域と暮らしの実現のため、新しい戦略と目指すべき将来像を、議会、県民の皆さんとともに、明らかにしていきたいと考えています。

変化の激しい時代にあって、子どもから高齢者まで、希望を持って生活することのできる「新しいふるさと」づくりの実現を目指していきます。